

1. 評価結果概要表

作成日 2009年3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	3670200447
法人名	医療法人 真誠会
事業所名	グループホームほのぼの
所在地	徳島県鳴門市大津町矢倉字五ノ越32-1 (電話) 088-686-3113

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成21年3月19日

【情報提供票より】(平成21年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤:12人、非常勤:4人、常勤換算:ユニット1 6.5人 ユニット2 6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,900 円	その他の経費(月額)	光熱水費:3,000円、その他:実費	
敷金	有() 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原田内科
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は地域医療に関わる母体医療機関のもと、地域の中で自分らしく暮らすことを支援するという思いを込めて作られ、医療面においては24時間のバックアップ体制が整っている。運営者は常に利用者や事業所の状況を把握し、健康管理やサービスの質の向上に対する取り組みを積極的に行っている。豊かな経験と認知症ケアに対する情熱を持った管理者のもと、職員も落ち着いた雰囲気を持ち、利用者一人ひとりの個性を尊重した関わりを重視した日々のケアに取り組んでいる。また利用者の老人会への加入を支援したり、事業所主催の行事を開催するなどして地域との交流を深めている。事業所はゆったりとしたスペースがあり、利用者が思い思いに過ごすことができる工夫を各所に施し、季節感あふれる家庭的な雰囲気となっている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な課題であった「職員の異動等による影響への配慮」の項目における家族への連絡の仕組みづくりについては、毎月送付している利用者の日常生活状況のお知らせと共に職員の異動等についても報告し、改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員間で話し合いながら取り組み、事業所全体でまとめている。取り組みの中では、地域密着型サービスとしての事業所の役割について理解を深めていこうという姿勢が見られる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地区総代、老人会会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、他同業者職員等、毎回多数の出席がある。会議では事業所からの活動報告に加え、毎回議題を設け、ある時は認知症の講義をしたり、認知症状の対応事例や対応方法を職員が寸劇で披露し、利用者や家族の気持ち、悩みを表現するなど工夫が見られる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見は、家族会や運営推進会議、普段のコミュニケーションの中で積極的に聞き出し、職員間で話し合い、解決に向けて取り組んでいる。また毎月、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭出納の報告に加え、家族からの要望に応じて処方薬の変更内容や健康状態の変化を盛り込むなど、きめ細やかな対応を行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>老人会に加入して毎月の定例会へ参加し、保育園の運動会や地域の秋祭りなどにも積極的に出向き交流を図っている。また地区の消防団との合同防災訓練を行い、地域との協力体制も築かれている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で自分らしく安心して喜びと自信を持って暮らすことを支援するという地域密着型サービスの理念にもとづき、利用者それぞれが役割を持ち、家庭的な環境の中で、地域や家族との結びつきを重視した生活ができるよう方針を定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は常に理念を確認しあい、具体的なケアについて意思の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会に加入して毎月の定例会へ参加し、保育園の運動会や地域の秋祭りなどにも積極的に出向き交流を図っている。また地区の消防団との合同防災訓練を行い、地域との協力体制も築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をよく理解し、自己評価や前回評価の課題については全職員で具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地区総代、老人会会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、他同業者職員等、毎回多数の出席がある。会議では事業所からの活動報告に加え、毎回議題を設け、ある時は認知症の講義をしたり、認知症状の対応事例や対応方法を職員が寸劇で披露し、利用者や家族の気持ち、悩みを表現するなど工夫が見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の受け入れや市が主催する介護相談員連絡会への出席、運営推進会議での意見交換など関係づくりに努め、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭出納の報告に加え、家族からの要望に応じて処方薬の変更内容や健康状態の変化を盛り込むなど、きめ細やかな対応を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は、家族会や運営推進会議、普段のコミュニケーションの中で積極的に聞き出し、職員間で話し合い、解決に向けて取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が継続できるよう職員の異動は行っていない。やむを得ない場合は、時期や引き継ぎ面で最善の努力を行い、利用者の混乱を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画にそった新人教育や内部研修、外部研修への参加を実施している。研修内容は全職員に報告して共有すると共に、サービスの質の向上に活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や外部研修の機会を通して意見交換に努めている。またグループホーム協会徳島県支部の相互評価事業に参加し、相互訪問等による意見交換や事例検討を行い、同業者と共にサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	医療機関や施設、在宅からなど入居に至る経緯は様々であるが、その都度施設や家庭を職員が訪問し、相談を重ねながら見学や体験入居をしてもらうなど、徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は事業所が生活の場であることを意識し、利用者から食材選びや食事作りなどを通して生活の知恵を教えてもらうなど、お互いが協働し、共に暮らす自然な関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表を活用し、利用者からの聞き取りや家族との話し合いで得た情報をもとに、希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成の流れを全職員が意識しながら日頃の関わりを行い、利用者の意向や家族の希望を聞き出している。認知症高齢者の詳細なアセスメントができるセンター方式を活用しながらカンファレンスを行い、職員の気付きやアイデアも取り入れた計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、介護計画を見直している。また様々なケアチェック表を活用しながら利用者の状態変化や希望、家族の意見など、随時、実状にそった計画となるよう見直し新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整備し、利用者の負担となる受診や入院の回避、早期退院の受け入れ等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に応じたかかりつけ医への受診に加えて、毎月4回の協力医院医師の訪問診療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、利用者や家族、かかりつけ医等と方針を共有している。利用者の状態変化や思いの変化にも医師と共に個別に話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや介護上の対応は、プライバシーを損ねるような場面は見あたらぬ。また個人情報適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭菜園の手入れや調理への参加など、利用者一人ひとりのペースを大切に、リスクに配慮しながら楽しみごとや生活習慣を継続できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは利用者と職員が共に、会話を楽しみながら行っている。食事は職員も一緒に食卓につき、介助は利用者のペースや気持ちに配慮しながら行っている。誕生会では好みに応じて赤飯や寿司を選ぶことができる、折り詰めのお弁当を用意している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入れるよう準備し、時間帯も利用者の希望に応じて対応している。日中の入浴を拒む方にはその時々の方々の言葉かけのタイミングを図り、夜間入浴にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園の手入れや家事仕事、地域活動への参加、保育園児との交流など、ごく自然に楽しみごとや役割を見つける支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物などの日常的な外出の他、花見や遠足など事業所や法人の行事、地域活動に参加するなど戸外へ出かける機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の時間帯は鍵をかけず、職員は利用者の行動に関心を払い、常に見守りに徹している。また無断外出などの緊急時に迅速に対応できるよう対応マニュアルを作成している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導による防災訓練や関連施設と合同の消火訓練の他、2か月ごとに事業所独自の避難訓練も実施している。また地域消防団との合同訓練も年に1回実施し、協力体制を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を把握し、代替食や療養食も用意している。嚥下機能が低下した方には嚥下訓練と共に調理方法も工夫している。食事・水分摂取量はそのつど記録している。カロリーや栄養バランス、調理方法などは関連施設の管理栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには食卓やソファを配置し、落ち着いた雰囲気があり、絵画や季節の草花、観葉植物を飾り、季節感も感じられる。室内の換気もよく行い、気になる臭いや不快な音もなく心地よい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活スタイルや趣味に応じた品物を持ち込み、その人の居心地のよさに配慮した居室づくりを行っている。		